

行事と保育①

理事長 片山喜章

「保育と行事」についてのお話です。法人内の多くの園では「お泊り保育」を9月に実施します。そこで経験してほしい事は色々ありますが、**ねらいに優先順位を付けることが、大切な業務です**。9月初旬に開催するのは、夏場より、少しは暑さは翳り、陽が短くなる分、“夜の時間が長くなる”からです。つまり、友達や先生たちと「夜を迎え、夜を過ごす経験を味わう」、これが最も優先すべき目標です。ですから、お泊り保育＝夏開催＝キャンプファイヤーというこだわりはありません。また、園外の施設を使って実施する園もありますが、日頃、慣れ親しんだ生活の場である保育園で、色濃くなっていく夜を味わい、翌朝を迎える。

ですから「お泊り保育」が、「金土開催」だったり「土曜夕方集合開催」だったり、そんなことに関係なく、**一夜を過ごすことに大きな意義がある**、というのが基本方針です。

次に「担任以外の保育者との交流する機会を持つ」ことが目的です。ですから、交流のために小グループにわけて、担任以外の保育者と「スタンプ」のための出し物を考えてお稽古する期間を設けます。担当者と子どもが「内容」について、話し合う事も意義があります。

そして、本番、子どもたちは、ときどきしながら、他のグループの仲間の前で“お稽古の成果”を披露し、他のグループの“お披露目”を見る。その体験は、価値ある保育です。

さて、ここから先が、考えどころです。「暗闇の探検」と称した「肝試し」についてです。昨年は、多くの職員が変装をして、間接的な“おどし役”になりました。お化け屋敷のように、怖い目にあって、大泣きする経験は、少しくらいなら経験した方がよいのでしょうか？

昨年は、グループ活動として、懐中電灯をもってグループごとに進んで、要所、要所に、変装をした職員がいて“ミッション”をあたえる取り組みがありました。例えば《その積木を10段重ねなさい》という類のミッションです。この雰囲気、日頃、元気な男の子がびびって大泣きし、グループの女の子たちに励まされる場面がありました。昼の保育園ではありえない関係性です。今年はどんな仕掛けがあるだろうかと、楽しみにされている保護者の方もいるようですが、私自身は「おどかさ仕掛け」は一切、不要。何もなく、誰もいない暗闇を順路に沿って、進んで、戻ってくる、ただそれだけで良いと考えています。

「夜の園内」と「自分」の間に「畏怖のような自然な恐怖」が生まれます。**その恐怖心は、自分を大事にする気持ちを育むと私は考えます。その際、「ひとりで行く」か「友達と行く」か「先生と行く」か、その子自身が決断する！** そのような保育が望ましいと考えます。

さて、今年は、どんなスタイルで行うのでしょうか？ 答えは、まだ、暗闇の中です。